

I 次の国語課題の設問に答えなさい。(答えはすべて解答用紙に記入すること)

だいぶ以前に、農学専門のある先生から興味深い話を聞いたことがある。

その先生が留学していた頃、アメリカで人間の動物観を研究するというプロジェクトがあった。そのやり方は、例えば「一番美しい動物は何か」といったような質問を並べてアンケート調査を重ね、その答えが年齢、性別、職業、宗教、民族などどのように違うか調べるのだという。

このことを聞いて、それは面白そうだから日本でも同じような調査をしようという話になった。うまく行けば日米比較文化論になるかもしれない。というわけでさっそく試みたのだが、これがどうもうまく行かない。アメリカでなら「一番美しい動物は」ときけば、すぐ「馬」とか「ライオン」とか、何か答えが返って来る。「イ」同じ質問を日本人にすると、「さあ、何だろうな」とはなはだ齒切れが悪い。そこを無理に、何でも一番美しいと思うものを挙げてほしいと言つと、「そうだなあ、夕焼けの空に小鳥たちがあつと飛び立っているところかな」といったような答えになる。「これでは比較は無理だから、結局諦めました」とその先生は①クシヨウしていた。

私がこの話を聞いて興味深いと思ったのは、それが動物観の差異以上に、日本人とアメリカ人の美意識の違いをよく示すものと思われたからである。

アメリカも含めて、西欧世界においては、古代ギリシャ以来、②「美」はある明確な秩序をもったもののなかに表現されるという考え方が強い。その秩序とは、左右③タイシヨウ性であったり、部分と全体との比例関係であったり、あるいは基本的な④幾何学形態との類縁性など、内容はさまざまであるが、いずれにしても客観的な原理に基づく秩序が美を生み出すという点においては一貫している。逆に言えば、そのような原理に基づいて作品を制作すれば、それは「美」を表現したものとなる。

典型的な例は、現在でもしばしば話題となる八頭身の美学であろう。人間の頭部と身長が一对八の比例関係にあるとき最も美しいという考え方は、紀元前四世紀のギリシャにおいて成立した美の原理である。ギリシャ人たちは、このような原理を「カノン(規準)」と呼んだ。「カノン」の中身は場合によっては変わり得る。現に紀元前五世紀においては、優美な八頭身よりも荘重な七頭身が規準とされた。だが七頭身にせよ八頭身にせよ、何かある原理が美を生み出すという思想は変わらない。ギリシャ彫刻の持つ魅力は、この美学に由来するところが大きい。

もともと、この時期の彫刻作品はほとんど失われてしまつて残っていない。残されたのは大部分ローマ時代のコピーである。しかししばしば不完全なそれらの模刻作品を通して、かなりの程度まで原作の姿をうかがうことができるのは、美の原理である「カノン」がそこに実現されているからにほかならない。原理に基づいて制作されている以上、彫刻作品そのものがまさしく「美」を表わすものとなるのである。

だがこのような実体物として美を捉えるという考え方は、日本人の美意識のなかではそれほど大きな場所を占めているようには思われない。日本人は、遠い昔から、何が美であるかということよりも、むしろどのような場合に美が生まれるかということにその感性を働かせて来たようである。それは「実体の美」に対して、「状況の美」とでも呼んだらよいであろうか。

「ロ」「古池や蛙飛びこむ水の音」という一句は、「古池」や「蛙」が美しいと言っているわけではなく、もちろん「水の音」が妙音だと主張しているのでもない。ただ古い池に蛙が飛びこんだその一瞬、そこに生じる緊張感を⑤孕んだ深い静寂の世界に「A」はそれまでになく新しい美を見出した。そこには何の実体物もなく、あるのはただ状況だけなのである。

日本人のこのような美意識を最もよく示す例の一つは、「春は曙 やうやうしろくなりゆく山ぎはすこしあかりて…」という文章で知られる「B」冒頭の段であろう。これは春夏秋冬それぞれの季節の最も美しい姿を鋭敏な感覚で捉えた、いわば模範的な「状況の美」の世界である。すなわち春ならば夜明け、夏は夜、そして秋は夕暮というわけだが、その秋について、清少納言は次のように述べている。

秋は夕暮。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、鳥の寝ころへ行くとして、三つ四つ二つ三つなど、飛びいそぐさあはれなり。まいて雁などのつらねたるがいとちひさく見ゆるは、いとをかし…。

これはまさしく「夕焼けの空に小鳥たちがばあっと飛び立っているところ」というあの現代人の美意識にそのままつながる感覚と言ってよいであろう。日本人の感性は、千年の時を隔ててもなお変わらずに生き続けている。

「実体の美」は、そのもの自体が美を表しているのだから、状況がどう変わろうと、いつでも、「美」であり得る。《ミロのヴィーナス》は、紀元前一世紀にギリシャのシヨクミンチであった地中海のある島で造られたが、二一世紀の今日、パリのルーヴル美術館に並べられていてもその美しさに変わりはない。仮に砂漠のなかにぽつんと置かれても、同じように「美」を主張するであろう。だが「状況の美」は、状況が変われば当然消えてしまう。春の曙や秋の夕暮れの美しさは、長くは続かない。状況の美に敏感に反応する日本人は、それゆえにまた、美とは万古不易のものではなく、うつろいやすいもの、はかないものという感覚を育てて来た。うつろいやすいものであるがゆえに、いっそう貴重で、いっそう愛すべきものという感覚である。日本人が、春の花見、秋の月見などの季節ごとの美の^⑥カンショウを、年中行事として特に好んで今でも繰り返しているのも、そのためであろう。

実際、清少納言が的確に見抜いたように、^②日本人にとっての美とは、季節の移り変わりや時間の流れなど、自然の営みと密接に結びついている。そのことは江戸期に広く一般大衆のあいだで好まれた各地の名所絵を見ればよくわかる。

名所絵とは、文字通りそれぞれの土地において見るべき場所、訪れる価値のある所を描き出したものだが、単なる場所ではない。例えば、^⑦広重の^⑧バンネンの名作《名所江戸百景》を見てみると、雪晴れの日本橋とか、花の飛鳥山など、季節ごとの自然と一つになった情景が描き出されている。事実この連作シリーズは、まとまったかたちとしては、春夏秋冬の四部に分類されている。しかしそのように分類したのは広重ではない。広重は、江戸のなかの見るべき場所を、特に順序立てずに、いわば思いつくままばらばらに描き出して行った。それが好評であったので、次々と続けて、百十八点まで描いたところで彼は世を去った。その後版元が、別の画家に追加分を一点と扉絵の制作を依頼し、あわせて計百二十点の「揃物」として刊行したが、そのときに内容を四季に分類したのである。ということは、当初はばらばらに描いた「名所」が、いずれも季節の^⑨風物や年中行事と結びついていたので、自ずから分類が成り立ったということである。「ハ」名所そのものが、江戸の町と自然との結びつきによって生まれて来たのである。

かつての名所絵がそうであったように、今日でも人々は、旅をするとその記念や土産ものとして、土地の観光絵葉書を買求める。パリやローマに行くと、土産物屋の店先にさまざまの絵葉書が並んでいるが、そのほとんどは、ノートルダム大聖堂とか、^⑩凱旋門とか、エッフェル塔など、代表的なモニュメントをそのまま捉えたものである。だが日本の観光絵葉書を見てみると、満開の桜の下の清水寺とか、雪に覆われた金閣寺など、季節の^⑪粧いをこらしたものが圧倒的に多い。「ニ」、清水寺も金閣寺も、それ自体見事な建築だが、観光写真はそこに自然の変化を組み合わせることを好むのである。それもまた、「状況の美」を愛する日本人の美意識の表われであろうか。

(高階秀爾『日本人にとっての美しさとは何か』筑摩書房・二〇一五年)

問一 波線部①～⑩のカタカナは漢字に、漢字はその読みをひらがなで書きなさい。

問二 空欄「イ」～「ニ」に入る接続詞として適当なものをア～オからそれぞれ一つずつ選びなさい。
ア つまり イ もちろん ウ さらに エ 例えは オ ところが

問三 空欄「A」に入る人名として適当なものを次のア～オから一つ選びなさい。
ア 石川啄木 イ 正岡子規 ウ 紀貫之
エ 高浜虚子 オ 松尾芭蕉

問四 空欄「B」に入る作品名として適当なものを次のア～オから一つ選びなさい。
ア 『源氏物語』 イ 『徒然草』 ウ 『更級日記』
エ 『枕草子』 オ 『方丈記』

問五 傍線部(1)「美」はある明確な秩序をもったもののなかに表現される」とあるが、ここで述べられる「明確な秩序」と同じ内容の語句を本文中から抜き出さない。

問六 傍線部(2)「日本人にとっての美とは、季節の移り変わりや時間の流れなど、自然の営みと密接に結びついている」とあるが、著者がそうした日本人の美意識を端的に表現している言葉を、本文中から抜き出さない。

問七 本文の説明として適当なものを、次のア～オのうちから二つ選びなさい。

ア 「一番美しい動物は何か」という動物観の研究は、日米比較文化論として興味深いものではなく、はっきりした回答を得られなかったために、結局は諦めるしかなかった。

イ 「美」がある明確な秩序をもったものの中に表現されると考える西欧文化においては、状況がいかに変化しようとも、常に「美」は「美」であり得る。

ウ 何の実体物もなく、あるのはただ状況だけという「古池や蛙飛びこむ水の音」という一句は、古来より日本人が感じてきた美意識を端的に示す一例と考えられる。

エ かつて日本人にとっての美とは、万古不易のものではなく、うつろいやすいもの、はかないものであるがために、一層貴重で、いっそう愛すべきものという感覚であった。

オ 日本人の美は、季節の移り変わりや時間の流れなど、自然の営みと密接に結びついており、それは砂漠のなかに置かれたとしても、変わらず「美」を主張するものである。

問八 二重傍線部「観光絵巻書」に見られるヨーロッパと日本の違いは、「美」に対するどのような感性の違いによると考えられますか。本文の内容を踏まえて、自分の言葉で説明しなさい。

解答

- 問一 ① 苦笑 ② 対称 ③ きかがく ④ はら ⑤ 植民地
⑥ 鑑賞 ⑦ 晩年 ⑧ ふうぶつ ⑨ がいせんもん ⑩ よそお

問二 「イ」ところが 「ロ」例えは 「ハ」つまり 「ニ」もちろん

問三 オ

問四 エ

問五 客観的な原理（に基づく秩序）

問六 「状況の美」

問七 イ・ウ

問八

問一	1点×10	計	10点
問二	1点×4	計	4点
問三	3点	計	3点
問四	3点	計	3点
問五	4点	計	4点
問六	4点	計	4点
問七	5点×2	計	10点
問八	8点	計	8点

問八	問六	問三	問二	問一	
			イ	⑥	①
		問四	ロ	⑦	②
	問七	問五	ハ	⑧	③
			ニ	⑨	④
				⑩	⑤

1. 次の各文を和訳しなさい。

1. You should eat to live; not live to eat.
2. To live is to think. So don't stop thinking.
3. Who is that little boy running after a butterfly?
4. How kind the people I met there were!
5. Isn't it great to be creating something new?
6. When we have arrived at the question, the answer is already near.
7. When going to bed, those who are looking forward to what is happening in the next morning are happy.

2. 次の文の英語の部分を和訳し、日本語の部分を英訳しなさい。

You cannot teach a man anything; ただ、あなたは彼が自分自身の中にそれを見つけるのを、手助けできるだけだ。

3. 次の各文を英語になおしなさい。

1. 私は昨日、帰宅途中で、カギを無くした。
2. 彼らは4月に、あの学校で音楽を学ぶでしょう。
3. ミスなしで英語を話すのは、難しい。
4. その時、誰がステージの上で歌っていましたか？

4. 英語で書かれた次の意見

It doesn't matter how slowly you go as long as you do not stop.

について、

- A. この英文を和訳しなさい。
- B. また、この意見に賛成ならば、I agree with this opinion. で書き始め、反対ならば、I don't agree with this opinion.

で書き始めて、あなた自身の意見を英語で書きなさい。

(指定された書き始めの部分を除いて、40～50単語程度 *使用した単語数を解答欄の所定の箇所に記入すること。)

